

## 第1回 全国高専テクノフォーラムへの期待

国立高等専門学校協会会長

宮城工業高等専門学校校長 四ツ柳 隆夫

持続可能な社会を創っていく上で、高等教育機関と社会との連携が生み出す、知的・技術的・教育的効果に対する人々の期待は、以前にも増して大きくなってきました。その中で、高専が培ってきた地域社会との協力関係に基づく成果もまた新たな評価を受けています。

さて、7月16日に公布された「独立行政法人国立高等専門学校機構法」と従来の高専関係の法規を比較しますと、高専発展の制約条件が解除され、高専が元気いっぱい活躍できる方向へと、大きく変わったことを知ることができます。その第3条（目的）には「創造的な人材の育成」と「高等教育の水準の向上と均衡ある発展を目的とする」が謳われ、第12条（業務の範囲）には「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究を実施、及びその他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと」が明記されました。これらは高専の教員の研究、特に、地域共同テクノセンターの活動に対する法的根拠を与えると共に、高専の第一任務である技術者教育に関して「社会と共に次世代の創造的な技術者を育成する方法を創ろう」と主張してきたことが、法律の条文に明確に記載されたということです。ここに高専は、教育・研究の両面に涉って、新しい発展を遂げる上で確固たる基盤を獲得しました。

これからの産業の中核は、知的・技能的付加価値の大きな「知的モノづくり産業」となっていくでしょう。そこでは、膨大な知的・物質的・材料的情報と技術的・技能的な手法の情報を駆使して、「着想」によって新技術を築き上げる方法論を持つことが基盤になります。その際、全ての始まりは必ず「アイデア」です。高専の教職員は、若いフレッシュな感性を持つ学生たちと日常的に触れ合い、その創造性に光を当てる努力をしています。同時に、学問と技術の最先端と基礎知識体系との間を往復しています。このような教職員が職務の中で熟成した「暗黙知」は、この高専から宝物（アイデア）を生み出す可能性を秘めています。

このように、独立行政法人化を機会に、国立高専は新しく生まれ変わるチャンスに恵まれたというべきです。良い人材を育て、良い先生方を集めて、学生にとっても、教職員にとっても、そして社会にとっても、魅力ある、元気いっぱいの高専になるチャンスです。

実物に触れる産学共同研究の場を通して、創造的な技術者を育成し、高等教育機関として「均衡ある発展」を目指して行きましょう。第1回全国高専テクノフォーラムが大きな契機を生み出すことを期待します。